

令和 8 年度 第 1 回 湖南省立図書館図書館協議会 会議録

■開催日時 令和 8 年 7 月 23 日（木） 午後 7 時 00 分～ 8 時 30 分

■開催場所 湖南省立甲西図書館 2 階 集会室

■出席者 図書館協議会委員 9 人

事務局 6 人

■傍聴人 3 人

1. 開 会

[会長あいさつ]

[教育長あいさつ]

[職員紹介]

2. 報 告

1) 令和 7 年度図書館事業実績について

2) 令和 8 年度の図書館運営について

3) 図書館基本計画について

議長	それではまずは事務局から説明をよろしくお願いいたします。
事務局	（資料に基づき「令和 7 年度図書館事業実績について」「令和 8 年度の図書館運営について」の報告）
会長	なにかご意見のある方はおられますでしょうか。
委員	先ほどの説明で 6 月に自由に借りられるようになった、予約できるようになったとかいう内容が少し分かりにくかったのもう一度説明をお願いできますか。
事務局	利用者がカウンターに立ち寄ることなく、図書館に設置されている利用者用検索端末を利用して、ご自身で利用カードのバーコードを読み取り、借りたい本の貸出手続きを完了できるようになり

	ました。 現在、このセルフ貸出システムを利用する方は、全体の貸出件数の約1割を占めています。 これに伴い、これまでカウンターで行っていた1冊ごとの貸出期日スタンプ押印を廃止し、貸出一覧レシートの発行に切り替えました。 一部利用者からは、スタンプがないと貸出期限が分からず覚えにくいといった声も聞かれますが、全体としては「覚えやすくして良い」と好意的に受け入れられています。
委員	40年記念誌という言葉も出ましたので、例えば最初の頃でしたら、いろんな行事をされておりましたが、その行事の記録は残しておられるのでしょうか。
事務局	当時の記録についてはカセットテープで保存をしておりますが、カセットテープの劣化、再生機器の消滅などで保存の在り方を見直す必要がある状態です。 通常ですと保存期限は10年なり30年なりを過ぎると、廃棄ではないかという意見も出ておりますが、協議中です。
委員	何らかの方法で残していただけるように願います。
委員	岩根小学校が今年度から移動図書館の停車地に加わったということで、これは依頼があって移動図書館が行くようになったのか。または、図書館から依頼をしたのかどちらでしょうか。
事務局	学校からの依頼がありまして、巡回するようになりました
委員	そうになると他の学校からも依頼があると来ていただけるということでしょうか。
事務局	できる限り対応したいのですが、時間的な制約等もありますのでパズルゲームのように組み合わせながら、巡回を考えている状況であります。 希望がありましたら検討させていただきます。
委員	新しいシステムを導入されたということで、費用や人的な労力が減った等の効果はいかがでしょうか。
事務局	基本的なところは大きくは変わらないと思います。 ただ、例えば貸出期日スタンプの廃止によって利用者からの感謝の声などは聞こえてきてはいるものの、それ以外のところについては職員がしなければならないということもあります。また導入後1ヶ月弱の経過ということもあり、まだ実感をしていない部分もあります。

	お客さんを待たせなくなったというのが一番大きいと思っています。その分司書についても出来た時間に別の仕事ができるようになりました。
委員	私はスタンプを押していただけないというところが非常に不安を感じた方でした。 ただし、ほかの利用者から便利という声が返ってきているというのを聞かせていただいて、少し安心しました。 しかし、7冊8冊を複数回に分けて借りると、いつ返した本かというのは、1枚のレシートだけでは失ってしまうと、借りている本の状態がわからなくなってしまいます。
事務局	現状はカウンターに判子は常設していますので、押してほしい、または不安そうな方にはこちらからお声がけをさせていただくようにしております。
委員	できればスマホの中に貸出履歴が残るぐらいの機能向上を将来していただけるとありがたいと感じます。
事務局	図書館のホームページの方にログインしていただいて読書記録が残るという機能を選択して頂くとご利用頂けます 選択以前の貸出履歴については遡れないですけれども、機能を選択後から借りた本の履歴が確認できます。
委員	今のこの湖南市の図書カードは1回作ったらもうずっと更新なしで使えるということでもいいですか。
事務局	今のところ、ほぼ無期限となっております。 ただし、お住まいの方か通勤通学の方ということなので、転出された方はお返しいただくということになっております。 ただし住民票等に紐づいてはいないので、利用者の申告に基づくしか方法がないのが現状です。
会長	つづきまして事務局より資料5の説明をよろしく願いいたします。
事務局	(資料に基づき「令和8年度の図書館運営について(甲西図書館トイレ改修工事)」の報告)
会長	工期については資料のとおり、12月から2月まで、3ヶ月間が休館ということの理解でいいですか。
事務局	ご認識のとおりです。
委員	甲西図書館が閉館しているあいだは石部図書館を休館日無しで開館するのでしょうか。
事務局	そういったことも含めて検討していかないといけないと思いま

	す。教育委員会にも諮りまして、最終決定させていただきます。
会長	工期の短縮や閉館に伴う代替案については工夫をしていただいてということで、よろしくお願いしたいと思います。
会長	続きまして図書館基本計画についての説明をよろしくお願いいたします。
事務局	(資料に基づき「図書館基本計画について」の報告)
会長	それではお1人ずつご意見をよろしくお願いいたします。
委員	館長が司書ではなく行政職の次長兼務になったことで常に図書館に対応できる状態ではなくなったと思いますが、職員体制が変わったことによる、マイナス面、プラス面を含めてお伺いしたいです。
事務局	ご心配いただいておりますように、通常時は西庁舎に勤務しております。図書館長ではございますが、図書館業務に加えて教育総務課、学校教育課、生涯学習課の四課を指揮監督する立場にあるため、図書館のみに常駐することは現状難しいです。 特に土日にお越しいただいた際に不在であることが、その場でご意見を伝えられないという点でご不便をおかけしているかと存じます。しかしながら、司書をはじめ副館長も甲西図書館の開館時間中は出勤しており、情報共有も常に行っておりますので、最大限カバーし、図書館運営について日々研鑽を積んでいるところで、ご理解ください。
委員	今後もこの体制が続くのでしょうか。このままではどうなってしまうのか危惧しています。
事務局	人事についてはこちらからなにか出来るようなものではないのでお答えはできませんが、現在の体制で最大限努力いたします。
会長	館長について司書でなければいけないという決まりはありますか。
事務局	司書でなければならないということないが、司書の方が望ましいというようなものはお見かけしたことがあります。
会長	これまでの館長は、司書資格を持つ方もいればそうでない方もおり、この点について今まで議論したことはありませんでした。皆様には引き続き努力していただきたいと考えております。
委員	気になった点が2、3点ございます。 まず、現状の計画案は、言葉が美しすぎるあまり、具体性に欠けると感じます。「本を読む場所から人と知と文化が交わる場の進

化」という表現は、「本を読むだけの場所ではない」という意図だと理解できますが、図書館はやはり本が中心にあるべきです。会長も仰ったように、本を中心に据え、人との繋がりやイベントも本と何かを結びつける形で展開すべきです。

「知と文化」のような抽象的な言葉ではなく、小学生が読んでも「なるほど」と理解できるような、具体的で分かりやすい言葉で「目指す姿」や「目標」を表現していただきたいです。

また、基本方針、目標、重点目標についても、今後具体化される計画案の中で、例えば「充実した図書館サービスの提供」がどのように実現されるのかを明確にしていきたいです。20 ページの基本政策には「定期的な研修」とありますが、充実したサービスを継続的に提供するための人材確保についても、もう少し具体的に計画に盛り込むことを希望します。

甲西図書館が設立された際、外部から経験豊富な館長を招聘したことで、非常に活気のあるスタートを切った経験がございます。このことから、図書館のトップである館長の役割は非常に重要だと認識しております。もし、このような具体例が計画に盛り込まれると、より明確なビジョンが見えてくるように思います。

もう一点、意見を申し上げます。8月19日に第2回策定委員会が開催されますが、本日の協議会で発言した内容は、事務局がまとめて策定委員会で説明されるのでしょうか。

協議会と策定委員会がどのように連携していくのか、また計画策定に向けたプロセスにおいて、意見聴取の段階で私たちの意見がどのように反映され、それに対して委員の方々がどのような反応を示すのかが見えてこない、私たちとしては不安に感じます。独自で勉強会も実施しており、お互いにより良いものを作り上げたいという気持ちは同じですので、事務局でイメージされているやり取りのプロセスがあればお聞かせいただきたいです。

例えば、勉強会でも話が出ましたが、先進地への視察を行う際に、私たちも同行させていただき、委員の方々と意見交換ができ

	る機会があればと考えております。1年間という限られた期間での計画策定は非常にタイトですので、私たちも計画策定に協力し、意見交換できる機会をどのように設けていけば良いのか、お聞かせください。
事務局	本日お渡しいたしました追加資料では、策定委員会での議論の内容をお示ししております。本日の皆様からのご意見につきましても、同様に議事録として整理し、策定委員会に資料として提出する予定です。このように、双方の意見を伝え合いながら策定を進めていくことを考えております。
会長	協議会と策定委員会の関係性が少し見えにくいと感じています。私自身、この場所で13年間活動させていただいておりますので、そのような意味では、私たちが策定委員会の皆様よりも優位だとは思っておりませんが、少なくとも、私たちは自信を持って取り組んでいる者が多いと感じております。 この点について、事務局としてはどのような認識をお持ちでしょうか。
事務局	まず図書館協議会についてですが、図書館法において「図書館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕について館長に対して意見を述べる機関とする」と定められており、その位置づけは認識しております。 次に策定委員会につきましては、資料8「図書館基本計画策定委員会設置条例」に明記されている通り、「策定委員会は教育委員会の諮問に応じ、図書館基本計画の策定に関し必要な事項について調査し、および審議するとともにその結果を答申する」という事務を担うものと位置づけられています。 このため、図書館基本計画の策定に必要な事項の調査および審議を行うにあたり、協議会からのご意見も一緒に盛り込み、それらを踏まえて審議していただくという関係性になります。本協議会でいただいたご意見は、事務局を通じて策定委員会へお伝えする流れで考えております。
会長	審議をしたものについては館長を通じて図書館基本計画に入れていただくということであれば、先に図書館協議会が開催され、その後に基本計画策定委員会を開くということで、現状逆になっているのではないのでしょうか。

事務局	計画策定の実務を担っているのは、この設置条例に基づき設置された基本計画策定委員会です。第１回目の委員会では、事務局で作成した案を提示させていただきました。しかしながら、まだ案を示した段階であり、具体的な議論には至っておりません。 開催順としては策定委員会が先になりますが、議論の深まりという点ではまだ進んでいないのが現状です。ですので、協議会が後回しにされたというようなお気持ちを持たれる必要はないかと存じます。
会長	策定委員会の中に協議会委員が、例えば２名参加するような形であれば問題なかったのですが、現在は二つの組織が並立する形になっているので。風通しを良くするためにも、対立関係になるのは避けたいと強く願っております。 その点につきましては、うまくご配慮いただきたくお願い申し上げます。
委員	11 ページの基本方針についてですが、一般市民である夫も目を通し「意味がわからない」と申しておりました。「癒しが取り組みの居場所」「次世代まで優しく包み込むウェルビーイングな図書館」といった表現からは、具体的なイメージが全く湧きません。 例えば、開館当初から司書として勤務されている方々が、今の図書館をどのように発展させていくかという現場の意見をまとめた文言ではないように感じます。この３つの基本方針については特に理解が困難です。 これらが作成された経緯として、例えば具体的な説明や、これからどのように進めていくかという具体案が伴えば、また受け止め方も違うかもしれません。今後の具体的な展開に期待したいと思います。
事務局	ただいまご指摘いただきましたように、理念や方針といった部分は、現時点では抽象的な表現になっているかと存じます。しかしながら、今後はこれらに具体的な内容を付加し、より明確なものへと発展させていくイメージであります。 この第１回目の資料では、具体的な事業計画までを記載しており

	ませんので、「一体何をするのか」という点で理解に苦しむような計画に仕上がっているのではないかとご心配されることと存じます。今後は、さらに詳細な内容を検討し、皆様にお示ししていきたいと考えております。 ご意見ありがとうございます。
委員	私も拝見したのですが、全体的な印象としては、読み終わっても具体的に何が言いたいのかよく理解できませんでした。これから具体化していくとのことですが、現状はまるで新聞の見出しだけを読んだような感じです。 特にグランドビジョンの部分を読んだ際、図書館がコミュニティセンターのようなものを最終目的にしているのではないかと感じました。ここで考えられている「コミュニティの拠点」とは、具体的にどのようなものを想定されているのか、お聞かせいただけますでしょうか。
事務局	図書館である以上、あくまでも図書資料があつてこそ人が集まるということを、当然のこととして考えております。先ほど来お話やご提案をいただいておりますように、読み聞かせやビブリオバトルといった事業を通じて、人々が繋がり交流する場を目指していきたいと考えております。 しかしながら、グランドビジョンという大きな見出しの中で、その意図が十分に伝わるような言葉を見つけることが難しく、このような表現となってしまっているのが現状です。
委員	今のお話を聞いていますと、お話会や映画会、あるいは講演会といったイベントを充実させていくことで、そのような拠点にしていくということですね。
事務局	コロナ禍以降、映画会などの事業を、開館当初のように積極的に開催することが困難な状況でした。しかし、甲西図書館が開館した当初の素晴らしい状態については、私自身も学習し理解しておりますので、そういった良い点は今後も継続していきたいと考えております。 それに加え、新たなニーズに対応できる範囲で図書館として貢献できることを積極的に取り入れていきたいと考えております。こ

	の「集う」「交わる」という言葉には、そういった意味合いも含まれているというイメージでございます。
委員	ほとんど理解できなかったため、どこを指摘すれば良いか分からないのですが、基本方針の３つの重点目標も、先ほどご指摘があったように、この３点ともよく分かりませんでした。 特に「施設」の項目にある「市民が情報を身近に感じられる仕組み」とは、具体的にどのようなものなのでしょう。どのような施設で、どのような仕組みをイメージされているのか、お聞かせいただけますか。
事務局	「仕組み」という言葉が分かりにくいとのことですが、「市民が情報を身近に感じられる」という点では、例えば本を探しやすくすることや、現在求められているような季節ごとの資料、日本の四季を感じさせる資料などを、より分かりやすく提示することもその仕組みの一つだと考えております。
委員	最後に、現状と課題の４ページ目を拝見しました。利用時間や休館日の制約を除けば、全ての課題が人的な問題、つまり司書の方々に関わることのように見受けられます。 これは人手不足からくる問題なのでしょうか、それとも体制的な問題だとお考えでしょうか？
事務局	この「現状と課題」の項目は、昨年度のリニューアル基本構想時に実施したアンケートやワークショップでいただいた意見を課題として挙げさせていただいております。 今ご指摘いただいた３番目の「利用時間」についても、「仕事帰りに寄れない」といったご意見があったため、「時間の制約」という形で記載いたしました。また、「利用者ニーズの多様化への対応不足」という課題は、イベント開催などが以前ほどできていないといった現状があると捉え、アンケートの結果を基にここに挙げさせていただいております。
委員	私も皆様と同じく、グランドビジョンのところから、よく分からなくて考えこみました。 まず、図書館の基本的な役割が記載されていないことに不安を感じました。先ほど「人と本と繋ぐのは当たり前」というご説明が

	ありましたが、そのことがここに明記されていないと、図書館の本来押さえるべき役割が無い状態で計画がスタートしている印象を受けます。この点はぜひ押さえていただきたいです。これは基本計画そのものの根幹に関わる問題だと懸念しております。 「人と本を繋ぐ」という基本を押さえた上で、「集い」や「人と人が繋がる」といった内容を盛り込んでいただきたいと思います。 「本を読む場所からの進化」という表現については、グランドビジョンの中で用いる言葉としては、図書館に対する捉え方が狭く、イメージが限定されてしまうように感じます。もっと奥行きのある言葉、図書館の基本的な役割を包含しつつ、その先の可能性を示唆するような言葉にさせていただく方が良いのではないかと感じました。 次に、14 ページの「現状と課題」についてですが、例えば「情報提供不足」や「多様化への対応不足」、「活用不足」といった課題は記載されておりますが、その原因が明確になっていません。原因を究明しないままでは、課題を羅列するだけで終わってしまう懸念があります。原因を特定し、それを改革していくことは、今回の計画に盛り込むべき重要なポイントですので、ぜひここを明らかにしていただきたいです。 もう一点、本日の会議のまとめは、策定委員会に提出されるということですが、そのまとめた内容は、策定委員会に提出される前に私たちにも共有していただけるのでしょうか？
事務局	次の会議までにどの程度整理できるかにもよりますが、策定委員会の議事録は、本日提出すべきと判断し、要約という形でまとめさせていただきました。これと同様に、議事録が完全にまとまっていなくても、何らかの形で整理して提出する方針です。 また、先ほどからグランドビジョンや基本方針について、「全く伝わらない」というご意見を多数いただいております。もし、これらの項目にふさわしい言葉や表現がございましたら、ぜひお聞かせいただければ幸いです。
委員	昨日、朝日新聞に「今こそ図書館」という記事が掲載されていま

委員	した。その記事の冒頭では、近年、「図書館の統廃合の流れ」と「新しい取り組みの注目」が挙げられており、今こそ図書館の原点や価値を見つめ直すべきであると提言しています。 統廃合については、全国に約 3,200 ある図書館は、ここ 2、3 年は横ばいか微減ですが、それまでは増加傾向にありました。もともとは公共施設の総合管理計画の一環として、全国の自治体に公共施設の整理が課せられていますが、実際に図書館が閉館されるケースはほとんどありません。以前、東京のある市が図書館閉館を決定した際、現職の市長が他の候補者に敗れた事例もあり、図書館の閉館は全国的にも非常に注目される事柄です。そうした中で、図書館の統廃合は非常に厳しい状況にあると言えます。 また、近年の新しい動向として注目されているのは、図書館が集客力を持ち、賑わいを創出している点です。多くの新しい図書館で使われているキーワードは、実は「みんなが分からない」と言われるような、今度の計画で挙げられているようなキーワードがほとんどです。様々な図書館を訪れると、このようなキーワードがたくさん見つかります。 しかし、朝日新聞が今提言しているのは、図書館の原点とは何か、図書館が地域にある価値とは何かを再考すべきだということです。このことを踏まえた上で議論しなければ、今回の計画は意味のないものになってしまうでしょう。 マスコミは、図書館をもう一度見直し、その原点や地域における価値をきちんと考えるべきだと指摘しています。こうした問いに応えられるものでなければ、今回の計画は本当に意味のないものになってしまいます。皆様が危惧されているのは、まさにこのキーワードから見えてくるものに対する不安なのでしょう。 その中で、鳥取県の片山さんが仰っていたのは、何だかんだ言っても一番肝心なのは、図書館にきちんと司書を配置することだということです。司書の配置こそが、地域を本当に力のあるものにしていくのです。そういった意味では、今後の計画において、人の問題、特に司書の配置が非常に重要な課題となるでしょう。そ
----	---

	れが計画に盛り込まれていくことは、非常に重要であると思います。
委員	先ほど皆様からも意見があった通り、資料を拝見しましたが、非常に美しい言葉で表現されており、現実との乖離があるのではないかと感じました。 特に、現在の湖南省の情報、例えば財政面や人材的な問題を考慮すると、石部図書館と甲西図書館をどうするのか、つまり石部図書館を廃止するのかどうかという結論は、まだ出ていないようです。 湖南省の図書館をどのような方向性で進めていきたいのかという基本的な方針があるのであれば、まずその結論を出し、どのような図書館が欲しいのか、そのためにはこれだけの予算と人材が必要であるということを早期に提示すべきではないでしょうか。現状のスケジュールで、本当にその目標が達成できるのか、私としては非常に心配です。 今はまだ案の段階ですから問題ないのかもしれませんが、最初に結論があるべきではないかと感じます。現状を維持するのか、一つに統合するのか、あるいは別の方法を取るのかといった方針が示されないと、計画は前に進まないのではないかと思います。
事務局	現在、図書館について議論する中で、石部図書館をどうするのか、という点に意識を向けられている方がいらっしゃることは承知しております。 今回の基本計画策定においては、石部図書館を残すか閉館するか、という議論をするのではなく、湖南省全体の読書環境として、どのような読書環境を整備し、どのような図書館サービスを展開していくのかという方向性を示す計画にしていきたいと、策定委員会の中でも意思統一を図っております。 その結果として、石部図書館や甲西図書館をどうするかという話は、提供するサービスの内容がある程度決まってくれば、自ずと方向性が見えてくるものと考えております。

	図書館サービスを考える上で、建物ありきでサービスを考えるのではなく、先ほどご説明したように、例えばマツゾウくんが学校を訪問することで、岩根地域の子供たちの読書環境整備ができるといった方法もあると考えております。読書環境を地域全体に広げていくという視点で検討を進めていきたいと思っております。
委員	全体的な印象として、この計画案は「本のある複合施設を作ろう」という意図で私は読み取ってしまいました。 しかし、皆様が先ほどからおっしゃっているように、本離れを食い止め、皆が本の魅力を実感できるような図書館、あるいは読書環境を目指すべきだと考えております。 例えば、本の素晴らしさや世界観を伝えられるのは、司書さんだと思うのです。その司書さんのもとでの職場体験は、子どもたちの未来に繋がる素晴らしい機会になるのではないのでしょうか。それが読書環境の向上にも繋がっていくのではないかと考えていました。 この計画案は、非常に広範な書き方で捉えどころがないものの、可能性を秘めているという点は、かろうじて読み取れるかもしれない、というのが全体的な印象です。
委員	10月に策定委員会が先進地研修に行かれるとのことですので、どのような場所を視察されるのか、当然理想とする図書館に行かれるものと思っております。 策定委員会の皆様が、どこの図書館を参考に、湖南省の図書館をどのように発展させていこうとされているのか、非常に興味を持っております。
会長	その点については以前も議論したのですが、私たちも年に一度は視察に出かけるのが良いと考えております。 今回策定委員会が行かれるという先進地研修についても、もし私たちも同行可能であれば一緒させていただきたいと思っております。それが難しいようでしたら、策定委員会の皆様が視察された場所へ、私たちも改めて訪問し、同じ視点から議論を深める必要があるかと存じます。その点を頭の片隅に置いていただけれ

	ば幸いです。 私たち図書館勉強会も、今後さらに活発に活動していく所存です。良い意味での議論は、どんどん行いうべきだと考えております。湖南省を愛する者ばかりですので、ぜひ前向きにご検討ください。 また、皆様におかれましても、お忙しい時間の中とは存じますが、図書館にお越しいただき、館長にも個別にご提案などを聞いていただく機会を設けていただければと存じます。 これをもちまして、一旦終了とさせていただき、事務局の方にお返しいたします。
--	---

〔副会長あいさつ〕

閉 会